

# 透析患者における味覚感度調査

—味覚感度改善を試みて—

医療法人社団スマイル 博愛クリニック

寺尾佳介 沖永鉄治 櫻井真人 高山翔大 植木優子 重藤涼介  
岡本彩那 中島初美 山平満浩 藤井恵子 倉脇壮 金井亮  
下田大紀 頼岡徳在 高杉啓一郎



# 背景

慢性維持血液透析患者の食事療法基準として、日本透析医学会では、1日の塩分摂取量を6g未満と推奨している。

現在、透析患者は高齢化が進む中で、高齢者は味覚が低下しているという報告もあり、減塩食を習慣付けることは困難な場合がある。



# 目 的

当院の患者96名に対し塩味感度テストを行い、その特徴を検討する。

塩味感度が低下している患者に対し、減塩食を指導をすることで味覚が改善するか検証し、体重増加率の変化を観察する。



## 塩味感度テストを行った対象者

慢性維持透析患者	96名
平均年齢	65.4±12.8歳
平均透析歴	154±129ヶ月
男女比	56:40

## 食事指導を行った対象者

慢性維持透析患者	4名
平均年齢	74.0±7.4歳
平均透析歴	146±137ヶ月
男女比	2:2



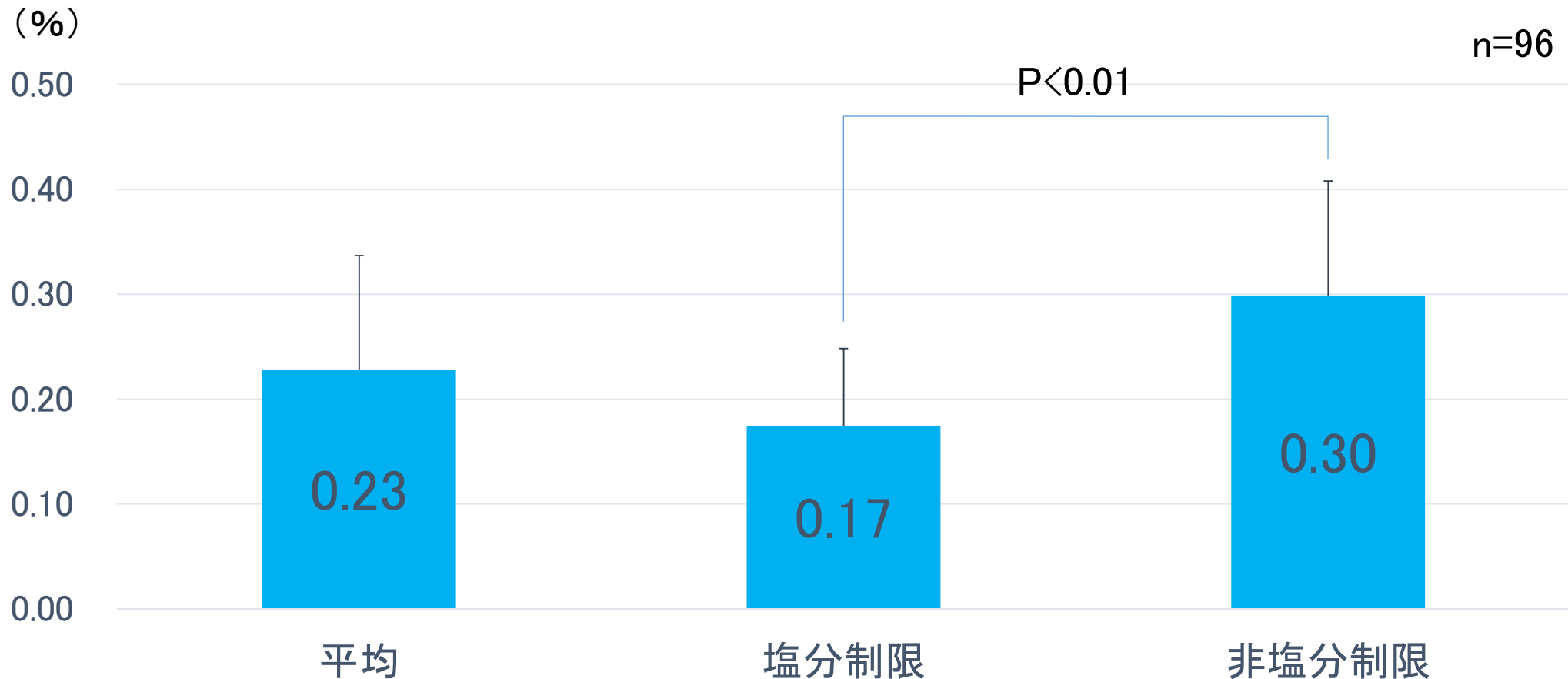
# 方法

食塩水(0.05%から0.05%ずつ濃度を上げ0.5%までの濃度)を薄い濃度から順に口に含み塩味を感じる濃度を調査した。

塩味感度が低い患者4名に食事調査・指導を行い1週間後に同様の味覚テストを行った。また、指導前後における体重増加率も比較した。



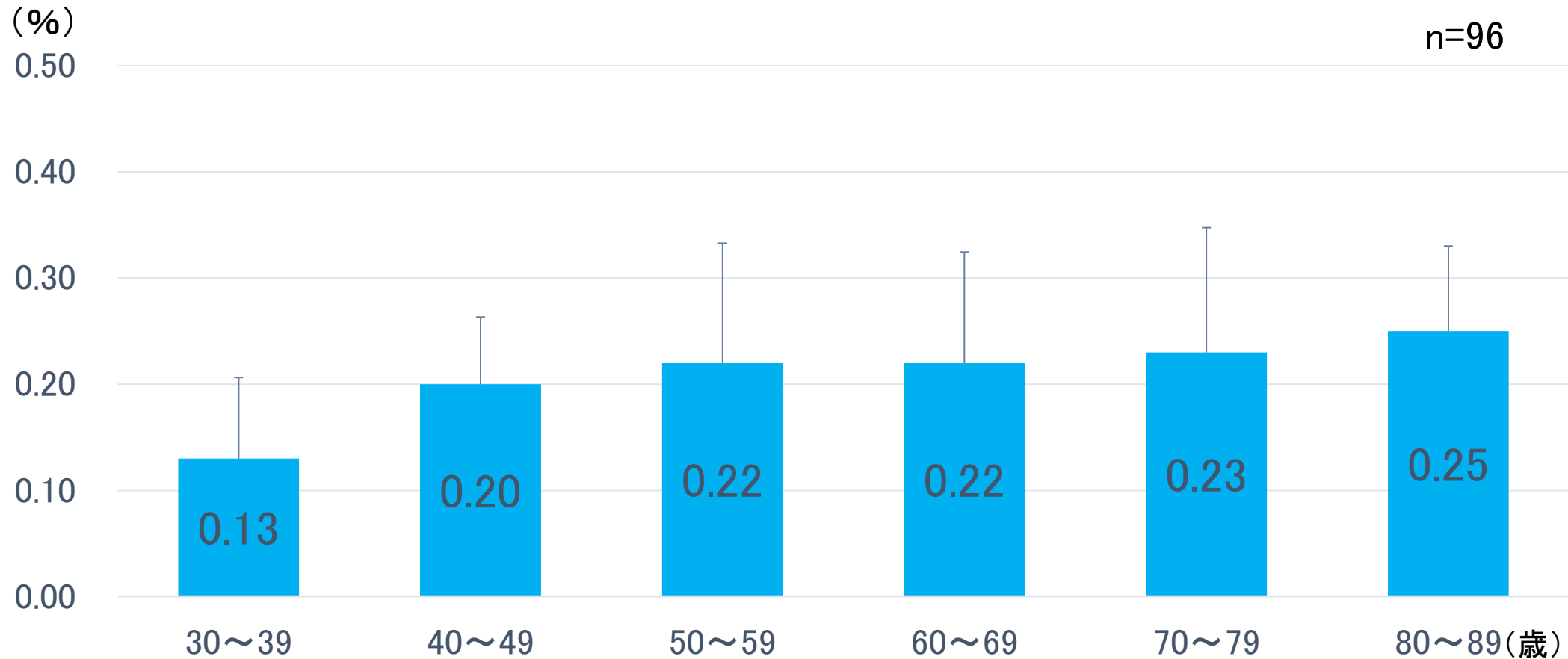
# 塩味感度



普段の食生活で塩分制限を意識している患者は、塩味に対する味覚感度が平均0.17%  
意識していない患者では平均0.30%と、前者の方が有意に低値を示した。



# 年齢別 塩味感度



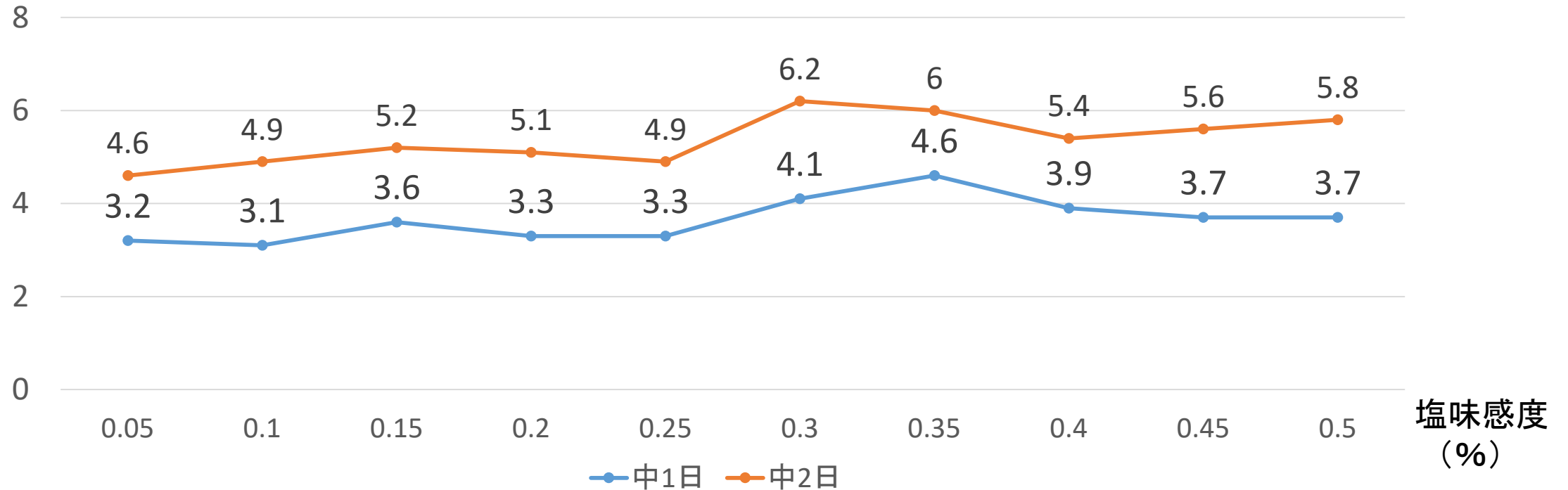
高齢になるに伴い、味覚感度の閾値が緩やかに上昇傾向を認めた。



# 塩味感度と体重増加率

体重増加率  
(%)

n=76

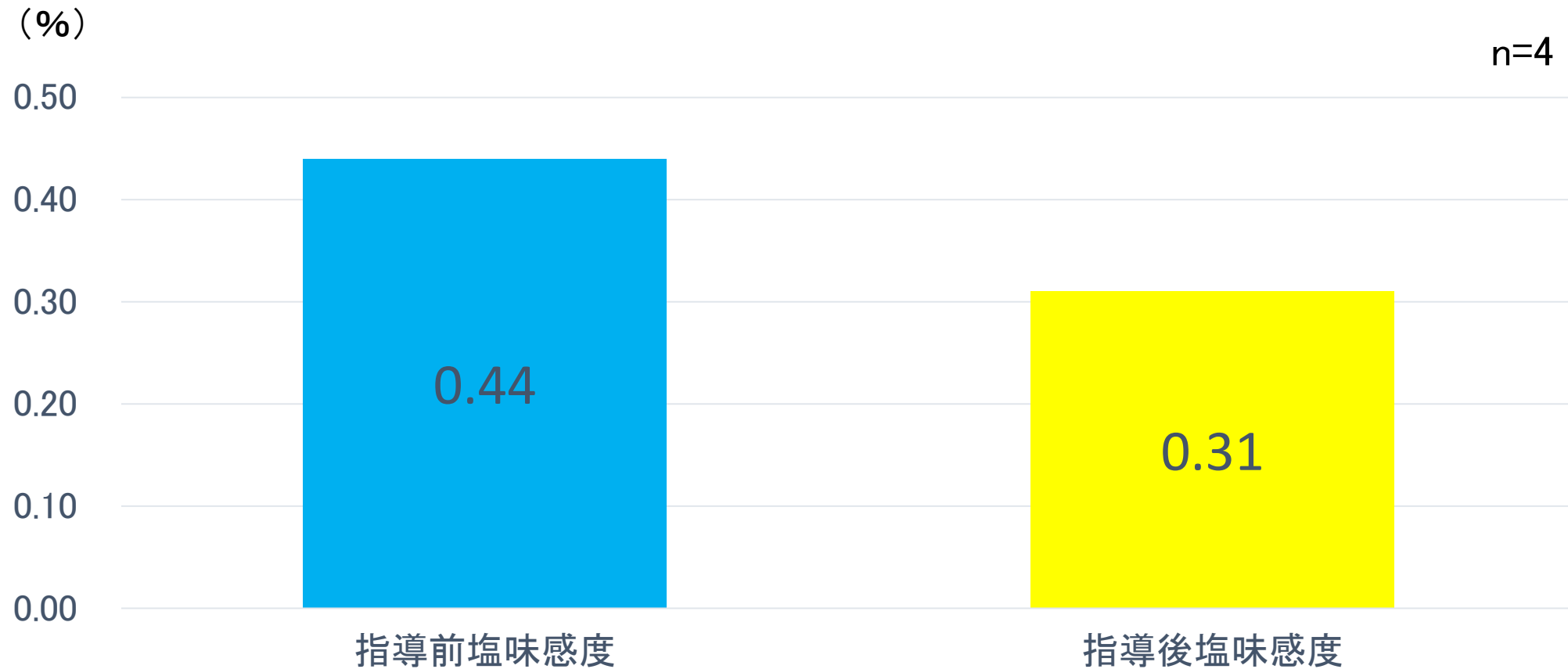


味覚感度の閾値が上昇するに伴い、体重増加率も上昇傾向を認めた。





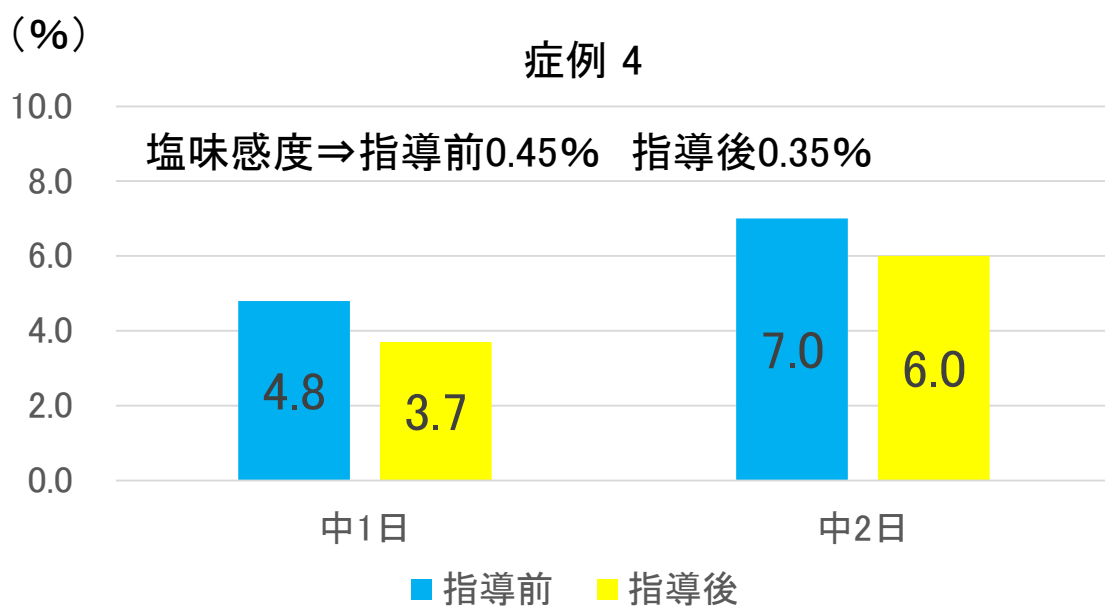
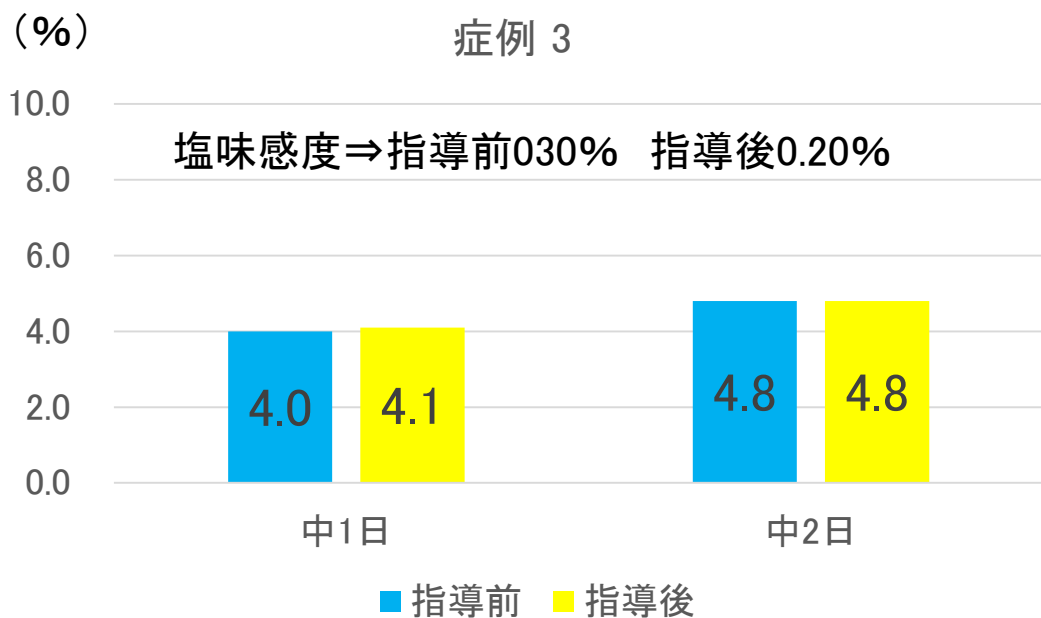
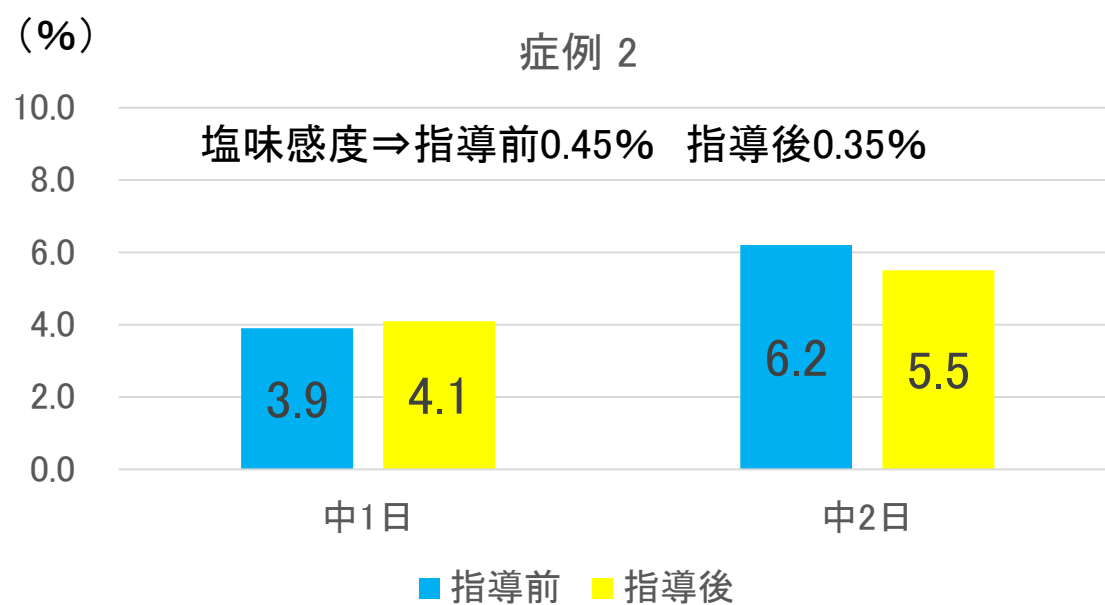
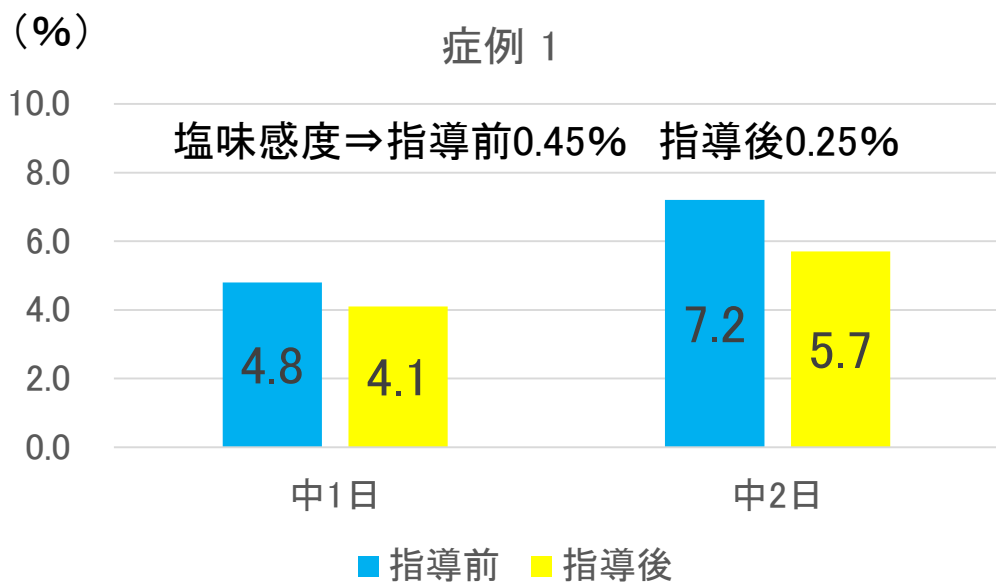
# 食事指導前後における塩味感度



食事指導前の塩味感度閾値は平均0.44%、指導後には平均0.31%と低値を認めた。



# 食事指導前後における体重増加率





# 考 察

塩味に対する味覚感度が低下している患者は、塩分制限を意識しておらず、味の濃い食事を摂取している割合が多い印象を受けた。

味を感じる味細胞の寿命は、10日程度と言われており減塩食を1週間続けたことにより味覚が改善されたと考える。

今後、食事指導を行い味覚が改善した患者に対し、減塩食を継続していけるようアプローチをしていくことが重要である。



# 結 語

- 加齢に伴い塩味に対する感度閾値が緩やかに上昇傾向を認めた。
- 減塩食を意識していない患者は、塩味に対する味覚感度が低下している傾向を認めた。
- 減塩食を継続することで味覚が改善し、体重増加率も減少した。

**中国腎不全研究会  
COI開示**

**筆頭発表者名  
寺尾 佳介**

**演題発表に関連し、  
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。**